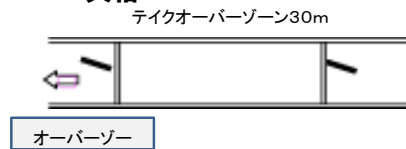


※ リレー競技のルール 「バトンパスで失格となる場合・ならない場合」

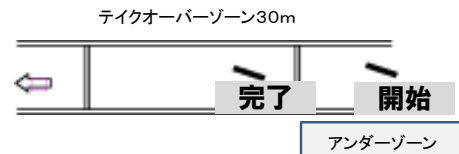
(1) テイク・オーバー・ゾーン外（後方）での受け渡し → 失格

テイク・オーバー・ゾーンを出てから完了した場合、または完了せずにバトンがゾーンを過ぎてしまった場合は失格となる。(オーバーゾーン) 体の位置ではなくバトンの位置が基準となる。



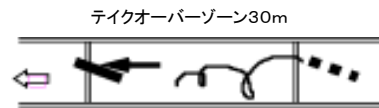
(2) バトンパスがテイク・オーバー・ゾーン手前で開始された（次走者の体の一部に触れた）場合 → 失格。

バトンパスがテイク・オーバー・ゾーン手前で開始された（次走者の手または体の一部に触れた）場合は失格となる。次走者が手を挙げていても、バトンが次走者の体に触れなければ失格とならない。



(3) バトンが次走者の手（体の一部）に触れることなく落下し、次走者が拾って走った場合。 → 失格

「バトンが次走者の手（または体の一部）に触れていない」、すなわちバトンパスが開始されていないため、次走者が拾ってそのまま競走を続けた場合は失格となる。あくまでも落とした者（前走者）が拾わなければならない。



(4) バトンが自レーンのテイク・オーバー・ゾーン内で次走者の手に触れてから落下し、隣のレーンに転がった場合。

この場合は、次走者にバトンが触れ、バトンパスの最中であるので、前走者が拾わなければならない。次走者に完全にバトンが渡されない限りは、次走者が拾ってそのままスタートすることはできない。

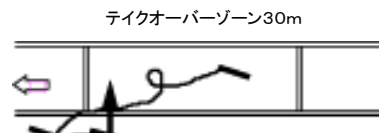
(a) テイク・オーバー・ゾーンの範囲内にある場合

走る距離を短くしないで、かつ隣のレーンの競技者を妨害しないで自レーンに戻り競走を継続すれば失格とならない。



(b) テイク・オーバー・ゾーンの範囲外にある場合

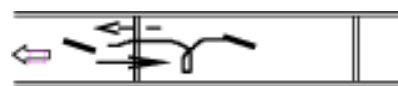
この場合は、持ち運んでいないので、進行方向でかつレーン外にバトンが転がって出ても、競走する距離を短くしないことを条件に、自分のレーンに戻って競走を継続すれば失格にはならない。



(5) バトンが自レーンのテイク・オーバー・ゾーン内で次走者の手に触れてから落下し、自レーンのテイク・オーバー・ゾーン外に転がった場合。

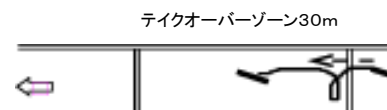
(a) 進行方向に出た場合

前走者が、走る距離を短くしないで、かつ隣のレーンの競技者を妨害しないでバトンを拾い、自レーン（テイクオーバーゾーン内）に戻って競走を継続すれば失格とならない。



(b) 進行方向と逆方向（後方）に出た場合

この場合は、次走者の手に触れているが、バトンパスの最中で完了していないため、必ず前走者が拾う。一旦テイク・オーバー・ゾーンの中に戻って再スタート（後方に出た場合はそのまま継続）すれば失格とはならない。



(6) バトンを投げて次走者に渡した場合 → 失格

日本陸上競技連盟競技規則 トラック競技 TR24.5 「バトンは、レース中は手で持ち運ばなければならない。」に違反するため失格となる。